

予算決算福祉文教小委員会審査報告

平成 30 年 3 月 16 日

予算決算常任委員長 風 間 行 男 様

福祉文教小委員長 石 川 信 雄

本小委員会に付託された事件にかかる審査内容及び主な質疑、意見等について次のとおり報告します。

記

事件の番号	付 記 内 容
議案第 22 号	平成 30 年度飯綱町一般会計予算中、 民生費、衛生費、労働費（シルバー人材センター運営事業） 教育費及び関係歳入

第 3 款 民生費

□保健福祉課

質疑①：深沢の公民館跡地（生涯活躍事業）について、地元と折り合いがつかないという話も聞いたが、来年度に完成できるのか。

回答①：地元とは話をしており、概ね了解を得ている。30 年度に完成させる。

質疑②：障がい者の就労は実際どのくらいあるのか。

回答②：障がいの特性にもよるが、一般就労しても人間関係や仕事内容等の理由で辞めてしまうケースもあり、継続することは難しい。

質疑③：地域移行支援と言われているが、実際はどのような状況か。移行できない場合は、町がお金を出して施設入所継続になるのか。

回答③：地域移行支援については以前から言われている。介護もそうだが、自宅で暮らすための受け皿が必要である。町内では、林檎の里のグループホームに入居している人も地域に含まれており、費用は福祉サービス給付費で支払っている。障害者自立支援法が平成 17 年に施行され、その後、平成 25 年に障害者総合支援法へ変わり、約 10 年の間で変わってきている。

質疑④：社会福祉法人が障がい者を積極的に雇っているテレビを見た。雇用形態等を変えていくことも 1 つの方法かと思う。

回答④：農業と福祉を一緒にとりという動きもある中、SUNへ話をしたこともあるが、指導できるスタッフがいないので、今は対応できないとの返答であった。

質疑⑤：地域包括支援センターの繰出金拡充とは、人件費のことか。

回答⑤：社会福祉協議会から社会福祉士の派遣をお願いしている。地域包括支援センターで権利擁護や総合相談の業務を担当する予定。

質疑⑥：低所得者保険料軽減とは、低所得者へ補てんするものか。

回答⑥：低所得者の保険料の軽減分である。

質疑⑦：介護保険システム改修とは外注か。

回答⑦：外注である。

□住民環境課

質疑⑧：国民年金事務費とは何か。

回答⑧：年金事務に係る電子媒体化に伴うCD代や封筒代など。

質疑⑨：町は年金事務所や受給者とのやり取りなど、どんな仕事をしているのか。

回答⑨：役場では資格取得などを窓口で受付し、年金事務所等へ送付している。それにかかる費用は、国から事務費交付金として町に入る。

質疑⑩：どのように算出しているのか。

回答⑩：事務費は例年どおり実績に基づいて計上している。

質疑⑪：出産育児一時金について、何人で計上しているのか。

回答⑪：当初は8人で計上しており、今年度は現時点で2人に交付している。

□教育委員会

質疑⑫：児童クラブ一般管理費で、30年度予算が前年対比6,313千円増えているが、預かり時間によるものか。

回答⑫：児童クラブは14時から19時までの開設で変わらないが、予算増加の主な要因は、牟礼西児童クラブの改修工事に5,004千円を見込んだため。

質疑⑬：要望があれば19時以降の開設も可能か。

回答⑬：多数の保護者が希望すれば検討しなければならないが、まずはどの程度の要望があるかを把握することが必要となる。

質疑⑭：前年対比で予算が減額になっているものは、少子化が影響しているのか。

回答⑭：一概には言えないが、保育一般事務費では、転出により管外保育の委託料が大きく減少する。南部保育園費は、大規模修繕が29年度にあったことと、土曜保育の実施場所をさみずっ子保育園に変更したことで人件費分が減少した。

質疑⑮：牟礼西児童館の老朽化により、西児童クラブを西小学校の空き教室に移すが、どの公共施設を残して、どう利用するといった構想はあるのか。

回答⑮：総務課において、公共施設の解体等の計画をまとめている。

質疑⑯：りんごっ子保育園のグリストラップ移設工事とは何か。

回答⑯：排水の油分を分離して集めるもので、現在は調理室内部にあるが、衛生面

から外部に移すもの。

質疑⑰：小学校が統合されて2校になるが、保護者の都合などにより、地元ではない児童クラブに登録することができるのか。

回答⑰：現状では複数の児童クラブに登録できるが、30年度からは主に利用する児童クラブ1カ所を登録してもらおう。ただ、参観日等で普段と違う児童クラブを利用したい場合もあるので、1カ月ごとにどこの児童クラブを利用するか予め希望を提出してもらおう。負担金は複数の児童クラブを利用しても変わらない。

質疑⑱：子育て応援祝金の特定財源はあるのか。

回答⑱：基金からの繰入金16,500千円である。

質疑⑲：マッチングイベントは何をするのか。

回答⑲：町内外の企業の求人説明を個別に面談するもので、1回目は29年3月27日に町内企業7社、町外企業4社とママさん15人が参加し、4人が就職している。2回目は今月2日に町内企業11社、町外企業6社とママさん22人が参加した。就職等の結果はまだわからない。

第4款 衛生費

□保健福祉課

質疑①：休日がん検診のマンモグラフィについて、何人くらいを見込んでいるのか。

回答①：40人程度を見込んでいる。検診機械や行程の関係もあるため、たくさんはできない。試行的に1日にできる最大人数である40人程度と考えている。また、休日に実施するという面や委託機関との関係から、平日と比べて検診費用は若干高くなる。

質疑②：特定不妊治療費補助とあるが、何人くらいを想定しているのか。また、29年度は何人利用しているのか。

回答②：29年度の申請は、現在のところ延べ3人。本日も問い合わせがあったため、1人増えるかもしれない。費用については、補助額を上限15万円としており、年齢制限と回数制限を設けている。

質疑③：不妊治療にはお金がかかるが、申請される方は町の補助15万円で問題ないのか。

回答③：不妊治療の補助は県にも同様の制度があり、そちらの助成も受けることができる。不妊治療には高額な医療費がかかるので、県の補助と町の補助を併用している。

質疑④：座間市において、メールなどを通じて自殺願望がある若者を集め殺害するという事件があった。見方によれば、自殺希望者と言えらると思う。飯綱町でも自殺対策の事業を行っているが、講習会などでそのような自殺希望者を把握できるものか。

回答④：心が病んで、誰かに相談できる状態でなくなってしまう人は、町の相談会

にも来ることができない状況だと思う。自殺を未然に防ぐためには、周りの人が気付くことなど、ゲートキーパーとしての機能が大切と考える。また、30年度には、すべての自治体において自殺対策推進計画を策定することが義務付けられている。その内容には、自治体だけではなく、関連機関を巻き込んだものが求められている。

質疑⑤：文中の「自殺傾向にある人」という表現は適切ではないのでは。

回答⑤：「自殺の危険性の高い人」に訂正する。

質疑⑥：食育推進事業費について、事業費がわずかだが伸びている。事業の対象は、大人なのか、それとも子どもなのか。

回答⑥：費用について、29年度は賄い材料費が交付金事業に入っていた。それが30年度から食育推進事業費に戻った。数字的に大きな変動はない。対象者については、食生活改善推進協議会が地区健康教室に出向いたり、実習に関するもの等の費用であるため、地域住民全体にかかわっている。食育推進協議会の関係機関として、学校関係者なども参加している。

□住民環境課

質疑⑦：町消費者の会補助金は2団体で10,000円ずつとのことだが、消費者の会は町で会員を募集したのか。

回答⑦：旧村時代に県の消費者大学を卒業した者で組織された経緯がある。現在はそういう研修がないということもあり、近年、新しく加入する者はない。現会員は高齢化で存続が厳しい状況である。消費者大学のようなものの開催については、県へ話をしてみたい。

質疑⑧：火葬場費が増加となっているが、要因は何か。

回答⑧：使用料は使用者（@12,000円）及び管外使用者（@40,000円）の増加を見込み、負担金は新斎場事業費の増加によるものである。

質疑⑨：ごみ処理にかかる負担金は可燃ごみ量で算出されるため、減量推進が欠かせない。各家庭への水切ネット等の配布を考えては。

回答⑨：物の配布は予定していないが、説明会の開催などソフト面で対応していきたい。

質疑⑩：古紙類の回収補助金はどうなっているのか。

回答⑩：小学校のPTAで実施しており、そちらに補助金を支払っている。

質疑⑪：公害対策費のところに、ニチアスとの協議会の件や信濃ゴルフクラブの件が書いていないが、もうやっていないのか。

回答⑪：会議等は継続して実施しているが、会社が経費を負担しており、町として費用が発生していないので記載はしていない。

質疑⑫：長野広域連合費の負担金が減少しているが、要因は何か。

回答⑫：事務費負担金、建設費・公債費負担金及び管理運営費は増加しているが、地元対策負担金の減少が主な要因である。計画では、A焼却施設は長野市、B焼却施設は千曲市、最終処分場は須坂市である。

質疑⑬：資源リサイクル費の特定財源が大きく減少しているが、要因は何か。

回答⑬：ふるさと応援基金繰入金と振興協会交付金である。詳細については、主管課へ確認し、資料を提出する。

第5款 労働費（シルバー人材センター運営事業）

質疑なし

第10款 教育費

質疑①：中学校管理費で、加配講師賃金 17 名とあるが、加配の講師は何人増えたのか。

回答①：17 名を 14 名に訂正。昨年と比べ 2 名の増となる。

質疑②：牟礼小学校管理費と三水小学校管理費では予算額が 2,000 万円ほど違うが、三水小学校の担任講師が 5 名とあり、その差か。また、この加配で牟礼小と三水小のバランスはとれているのか。

回答②：そのとおり。牟礼小学校は 1 クラス 36 人以上となり、県費の職員が 2 名配置されるが、三水小学校は 5 年生以外の学年が 1 クラス 35 人以下となり、県費の職員が 1 名しか配置されない。小学校統合検討委員会の報告書にもあるが、クラス替えが可能な 2 クラス制とするため、不足する部分については町費による担任講師の配置となる。また、1 学年 2 クラスというバランスはとれている。

質疑③：三水小学校では、加配の講師は何名増えたのか。

回答③：昨年と比較し、三水小学校は 8 名の増となる。

質疑④：中学校情報システム費で教室等の W i - F i 構築工事とあるが、学校で住民が利用できる部屋はあるのか。

回答④：社会開放施設として、パソコン教室がある。

質疑⑤：いづなスタイル構築事業で、飯綱町図として印刷製本費 80 万円が予算化されているが、方言カルタや町の歴史など、原稿を作るソフト部分の予算はどのようになっているのか。また、印刷部数はどのくらいか。

回答⑤：原稿については既に作成してあり、30 年度は印刷費のみである。また、部数については、飯綱町図の牟礼地区図面が 1,000 部、三水地区図面が 1,000 部、町全体の町図が 1,000 部、方言カルタについては 40 部ほどを予定している。

質疑⑥：小中学校の教材費補助事業で、信濃小中学校でも教材費の補助を行っているが、ドリルなどは先生が作っていると聞いた。当町の状況は。また、先生の負担が増えることはないか。

回答⑥：今まで使ってきた教材費に対しての補助であり、先生の負担増はない。

質疑⑦：議会初日の町長あいさつで、子育て支援として低所得者に対する支援とあ

ったが、小中学校の児童及び生徒 1 人あたりに 10,000 円を補助することが低所得者に対する支援と関係あるのか。

回答⑦：この教材費補助は児童及び生徒全員が対象であるが、ある意味低所得者にも支援していくことになる。

質疑⑧：英語検定料補助事業は、中学生 1 人に対し年 1 回補助するものだが、小学生が検定を受けたい場合は補助対象になるのか。

回答⑧：中学生を対象としており、小学生は対象とならない。

質疑⑨：給食費の口座振替にかかる手数料はどのくらいか。

回答⑨：振り替える金融機関により手数料が異なる。JA が 54 円、郵便局が 10 円であり、年間約 50 万円を予算化した。

質疑⑩：飯綱中学校における町費の加配講師は他の中学校と比べて多いのか。

回答⑩：長野市の中学校と比べると少なくはないが、信濃町と比べると人数的にはそれほど変わらない。ただ待遇については、周りと比較して良くなかったため、30 年度に改善する。

質疑⑪：子ども読書活動推進委員会が主体で生涯学習係が行っているブックスタート事業（ファースト・セカンド・サード）は、子どもたちの感性を育む良い事業であるが、対象人数は減少しているのか。また、絵本の選定は。

回答⑪：対象人数は減少している。絵本の選定は、子ども読書活動推進委員会において、それぞれの時期に読んで欲しい絵本 10 冊程度をブックリストとして作成し、選んでもらっている。

質疑⑫：公民館一般管理費で公民館保険をかけているが、その内容は。

回答⑫：本館及び分館主催事業にかかる傷害保険である。

質疑⑬：毎年、地蔵久保のオオヤマザクラの腐朽防止事業がなされているが、年々樹木が小さくなり枯れてきているように思われる。強風による倒木の恐れ、それによる被害が心配であるが。

回答⑬：樹木医に委ねているが、今後倒木の危険性について打診したい。

質疑⑭：歴史ふれあい館の常設展示見直しの見通しは。

回答⑭：あり方検討委員会を 30 年度に立ち上げ、検討していく予定。

意見⑮：文化活動として、いいづな大学・いいづな教室がある。長年、大学や教室を経験してこられた方には、ぜひ指導者として活躍していただきたい。そのようなシステムづくりを期待する。

質疑⑯：文化財保護費として、苔翁寺山門修理の補助金が計上されている。今後も同様な事案には補助金を交付していくのか。

回答⑯：今議会で予算が認められれば、地方自治法第 222 条により補助金交付要綱を制定する。今後、同様の該当があれば補助金交付の対象となる。

質疑⑰：溝口会館は資料館として見学できるのか。

回答⑰：現在は、陶芸・織物・染物教室など、社会教育団体の活動施設、また民俗文化財の収蔵保存施設として、小学校の地域学習に収蔵品を使用している。見学については可能だが、十分な見学施設とまでは言い難く、今後の課題

である。

質疑⑱：前年度予算に対し、調理場施設管理費で1,247千円の減、学校給食費で2,811千円の減となっている。小学校統合及び中学生の減少が要因か。

回答⑱：調理場施設管理費は、小学校の統合により給食の配送車が1台で済むことによる。また、学校給食費は、児童及び生徒の減少と統合による職員の減少が要因である。

質疑⑲：学校給食費は、予算47,034千円すべてが特定財源となっているが、国や県からの補助金か。

回答⑲：保護者から徴収した給食費である。

質疑⑳：地産地消予算819千円は、全体食材の何パーセントにあたるか。

回答㉑：全体食材では、1.74パーセントにあたる。

質疑㉒：地産地消の目標値はあるのか。

回答㉒：目標値は特段設けていない。この事業は、飯綱町産の米を子どもたちに食べさせたいということで、町が4分の1を補てんし、給食費の軽減を図っている。

質疑㉓：現在は米が対象だが、今後において地元産野菜や果実の予定はあるのか。

回答㉓：補助金の拡大の予定は今のところないが、農政係で県のエコファーマー制度に登録している人については、僅かではあるが補助金がある。

質疑㉔：地元産の米・野菜は全体のどのくらいか。

回答㉔：28年度は、米・味噌・しめじ・かぼちゃなどの緑黄色野菜、りんご・梨・プルーンなどの果実類で100パーセント。玉ねぎやじゃがいもは、昨年比30パーセント以上ではないか。ここ3年間で地元産の玉ねぎ・キャベツ・じゃがいもの使用量は確実に増えている。細かい砂の付着などで下処理に手間がかかる大根・人参・ねぎなどは、本年度は直売所や農家のご協力を得て、本格的に使用している。また、本年度着任した栄養教諭も直売所に確認をとりながら地元産を使用した献立づくりを行っている。ただ、今詳細なデータがないので、全体で何パーセントとまでは言えない。

質疑㉕：学校給食で、しめじの異物混入ケースが多かったが、そのようなことはないか。

回答㉕：今のところ、しめじについての異物混入はない。